

4月8日 第六回 集合研修

内容『事例：排泄介助』

- ・今回は「排泄の会」だったので、以前からずっと苦戦している「大量泥状便の対処法」についてみんなの意見やアドバイスを聞いたのがとても勉強になりました。
- ・『ふくよかな利用者の排泄介助・水様便多量の場合』を実際に、皆なで話し合いながら学びました。必要物品の確認のときも施設によって、けっこう違うんだなあ…と思いました。
- ・拘縮の方の皮膚を清潔に保つために、メンバーの腕や足を使って、実際に練習できたのが、すごく良かったと思いましたし、勉強になりました。
- ・下肢の肉付きが良く、陰部洗浄がしづらい方の事例検討では、下肢の動きを理解しながらのおむつ交換が学べました。
- ・移乗介助（お姫様抱っこ）についても、実際に見てもらうことができて良かったです。
- ・自分の体の使い方を变えるだけで介助がラクになることを、身をもって体験できたのが良かったです
- ・床からの移乗介助は老人ホームではあまり行った事がなかったので、とても考えさせられましたが、2人介助で良いのでは?と思いました…
- ・メンバーが働いている、各施設(障害者施設、有料老人ホーム)の排泄介助における事例検討など行いました。また、床からの移乗介助についても皆でやり方を考えてみました。
- ・事例から実際に要介護者、介護者となることで日々の介護技術の疑問点や困ってしまっていること、利用者の不安感や安心感を学ぶことができました。
- ・忙しく仕事をしていると…業務や基本の形(基本がないと何も出来ないけど…)に気持ちや考えが、固定されてしまうことがありますが、介助を受ける方の身体の状態や痛みなど…学んだ知識や相手の気持ちを想像しながら行うことが、本当に大切なのだと改めて考えることが出来ました。ありがとうございました。
- ・メンバーそれぞれが違う事業であるため、一つの観点からではなく、様々な観点から話し合うことができるため、参考になった。
- ・技術を磨くのではなく、要介護支援者本人のを中心に起き、技術、環境、システム、リスクなどを考えられればより良い介護支援に繋がると思う。

・身体の使い方ひとつで、介護支援者自身の負担はおろか、要介護支援者への影響も大きいと考えられた。

※ 現在は一人介助での所謂「お姫様抱っこ」は労働災害の観点から、厚生労働省の指針として、原則禁止されています。